

Ⅲ 農地の利用状況

遊休農地【荒廃農地】の推移

利用状況 調査年度	管内農地面積	遊休農地(荒廃農地)						
		再生可能	割合	再生困難	割合	面積計	筆数計	割合
H28	2,050ha (29,021筆)	287ha (4,401筆)	14.0	735ha (8,629筆)	35.9	1,022ha (13,030筆)		49.8
H29	2,050ha (29,056筆)	255ha (3,989筆)	12.4	792ha (9,402筆)	38.6	1,047ha (13,391筆)		51.1
H30	2,019ha (28,612筆)	220ha (3,616筆)	10.9	768ha (9,542筆)	38.1	989ha (13,158筆)		49.0
R1	2,013ha (28,551筆)	209ha (3,530筆)	10.4	779ha (9,406筆)	38.7	988ha (12,936筆)		49.1
R2	1,978ha (27,927筆)	202ha (3,341筆)	10.2	772ha (9,598筆)	39.0	974ha (12,939筆)		49.3

※遊休農地に関する措置の報告より抽出



農家戸数の推移

年次	農家戸数	販売農家				自給的農家
		主業農家	準主業農家	副主業農家	計	
平成12年	1,061	213	99	236	548	513
平成17年	1,037	170	56	222	448	589
平成22年	943	158	59	197	414	529
平成27年	788	139	40	189	368	420

資料：農林業センサス

IV 南州エコプロジェクト(株)事業概要



南州エコプロジェクトによる取り組み

【現在】

地域の課題

- ・高齢化に伴う人口減少
- ・耕作放棄地の増加
- ・有害鳥獣による農作物の被害

コミュニティ存続の危機

南州グループの現状と課題

- ・飼料（原料）を輸入に依存
⇒輸入飼料の高騰
⇒安定的な飼料確保に不安
- ・外国人労働者に依存
⇒従業員確保に不安
- ・耕作農地の減少
⇒余剰堆肥増

事業継続の上で大きなリスク

【取組】

南州エコプロジェクト(株)による地域活性化
包括連携協定・推進協議会・ワーキング会議
(農地の確保・人材支援等)

鹿屋市、垂水市、錦江町、南大隅町、肝付町

- ◎人材確保
 - ・特定地域づくり事業協同組合の設立と連携
 - ・大学や農大等との連携による関係人口の増
- ◎農地の有効活用
 - ・自給飼料の作付拡大による遊休農地の解消
- ◎自給飼料増産の課題
 - 栽培可能な作物の選定
 - ・飼料向け適作品種（地域性）
 - ・飼料（原料）の生産技術
 - ・原料の水分調整・保管方法
 - 自給飼料生産コストの低減
 - ・輸入飼料とのコスト差の解消
 - ・食品残差等の未利用資源の利活用
 - ・施設整備・機械導入費用の圧縮等

県の対応：南州エコプロジェクトの取組にオブザーバーとして関与し、必要に応じて助言や提案（栽培技術・各種制度・事業活用）

【将来】

地域（垂水市）

- ・雇用の創出
⇒地域の活性化
- ・耕作放棄地の解消
⇒有害鳥獣による被害軽減

共存・共栄

南州農場グループと大隅地域の畜産農家

- ・養豚濃厚飼料の国産化
⇒安定的な飼料確保が可能（量・価格）
- ・耕作放棄地による循環型農業の確立
- ・安心安全な食肉の安定供給
- ・ブランド化による優位販売

国産飼料の供給
安定した生活基盤提供

目指す姿(持続可能な地域社会)の支援連携体制

